

淀川汽水域における干潟再生の取組について

国土交通省 近畿地方整備局
淀川河川事務所 河川環境課
令和 7年 12月

1. 淀川流域の概要
2. 干潟の重要性と干潟減少の背景
3. 干潟保全再生事例：西島試験干潟
4. 生物調査結果

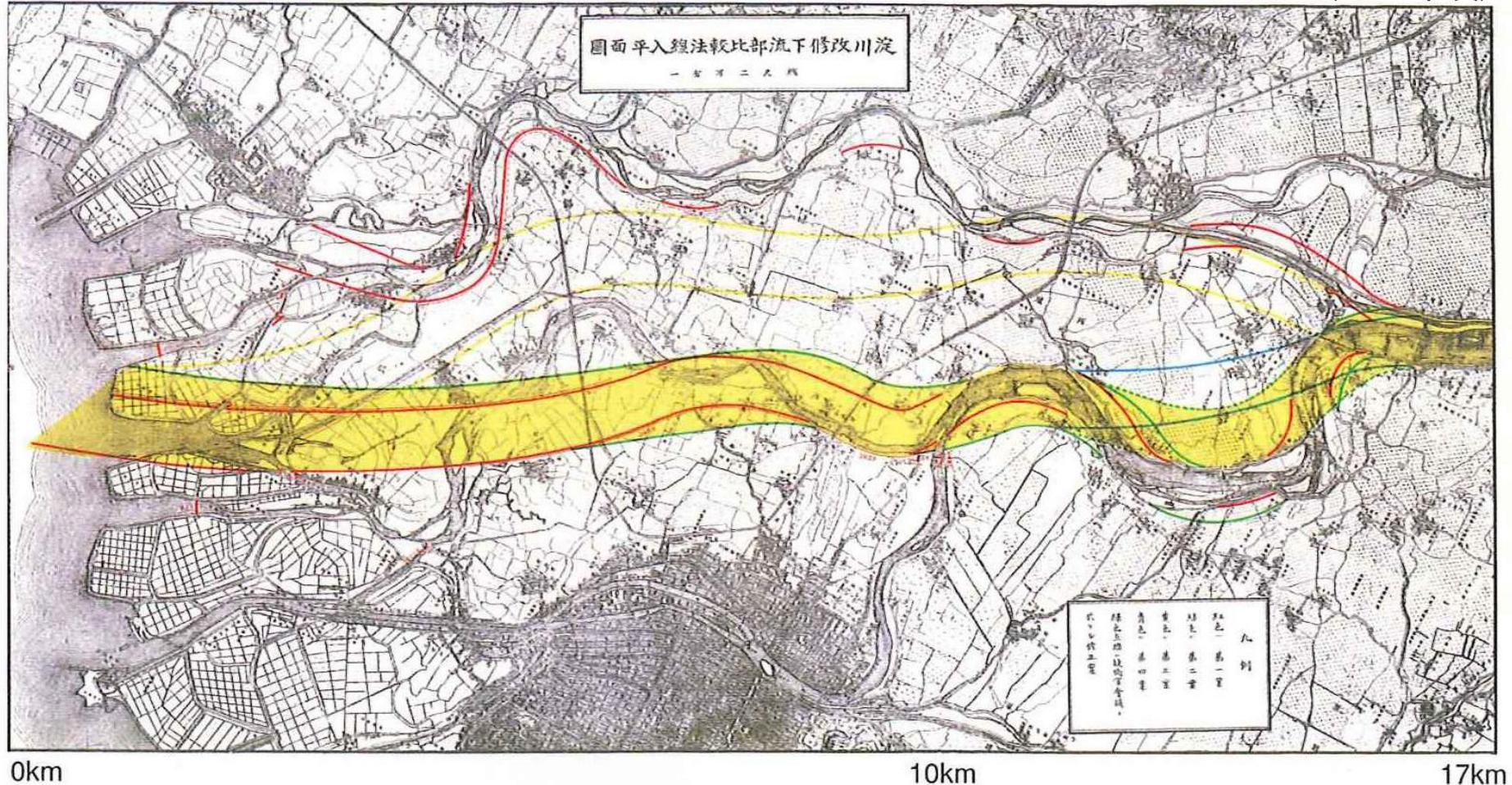
1. 淀川流域の概要
2. 干潟の重要性と干潟減少の背景
3. 干潟保全再生事例：西島試験干潟
4. 生物調査結果

項目	諸元
流域面積	8,240km ²
幹川流路延長	75km
流域内人口	約1,700万人
流域内市町村	54市17町4村

- ・淀川の源流は、滋賀県と福井県の県境にある栃ノ木峠。
- ・2府4県にまたがる広大な流域面積(日本の面積の約1割)と流域内人口(日本の人口の約2割)を擁する。



(1897年頃)



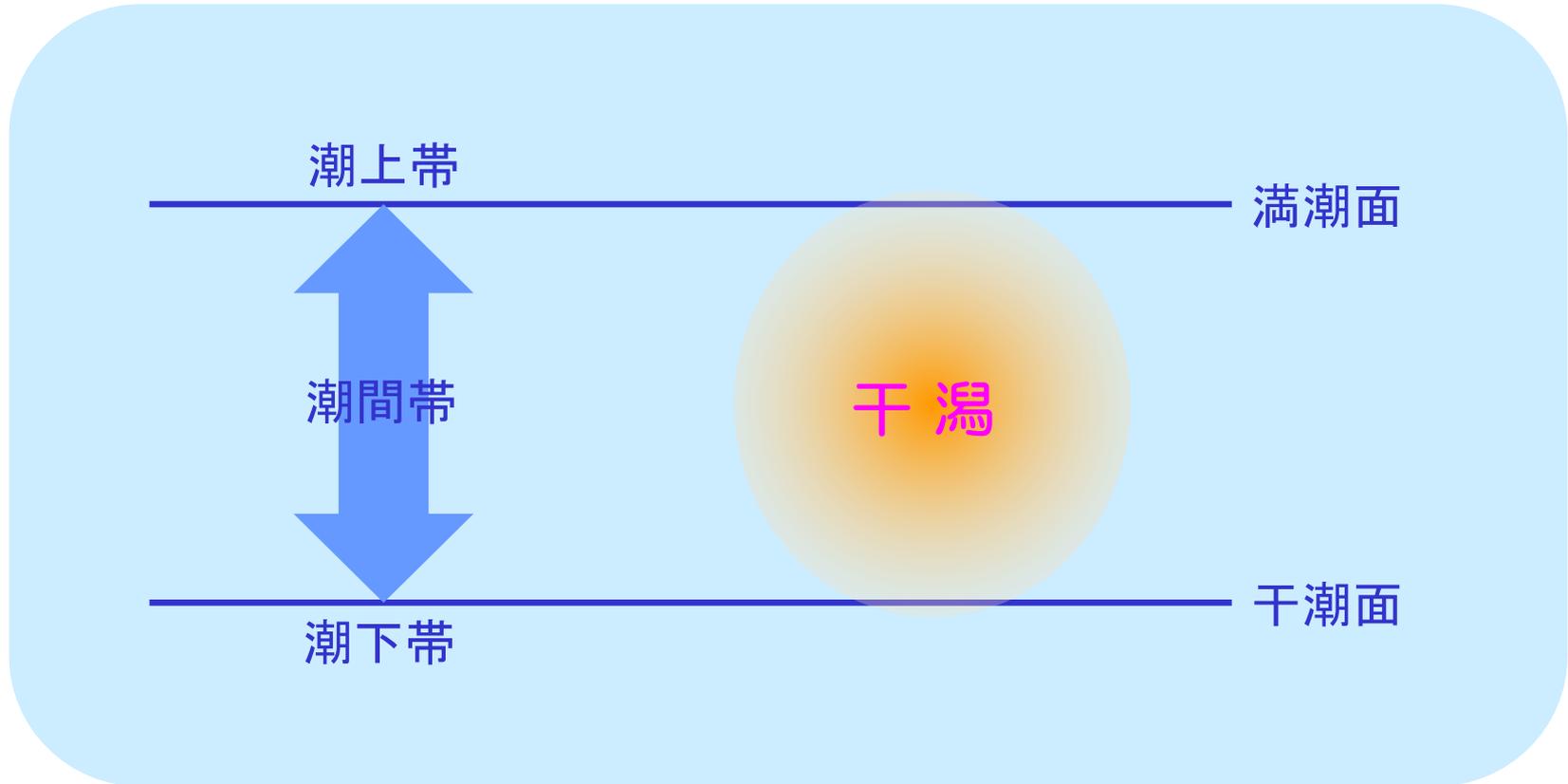
新淀川開削計画図

河口から約10kmの新放水路を開削し、大阪市を含む下流の治水に大きな効果を上げた。



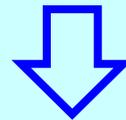
1. 淀川流域の概要
2. 干潟の重要性と干潟減少の背景
3. 干潟保全事例：西島試験干潟
4. 生物調査結果

干潮時に現れる砂や泥でできた浅い土地（潮間帯にあたる場所）



- 生態系にとっては干潟部分だけでなく、潮下帯や潮上帯を含めた一体が重要な場所
- 底生動物や魚類、鳥類など生物の多様性を育む場

- ヤマトシジミ、ゴカイ類、カニ類などの底生動物が多く生息
- 底生動物を主食とする、サギ類やシギ・チドリ等の鳥類は、干潮時に採餌のため飛来
- スズキ・ボラ等の魚類は、冠水時に採餌のため干潟に来遊し、その流入した水をシジミ等の二枚貝がろ過し、水質の浄化作用を果たす



様々な生態系が形成され、種の保存、生物多様性の観点からも非常に重要な場



ヤマトシジミ



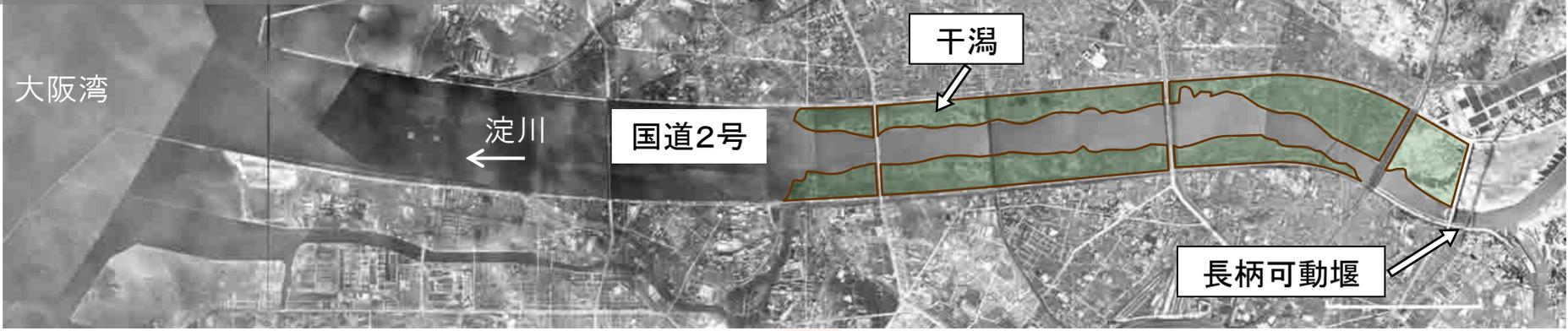
ハクセンシオマネキ



ユリカモメ

航空写真にみる淀川下流の変遷

S23航空写真（汽水域0k～10k）



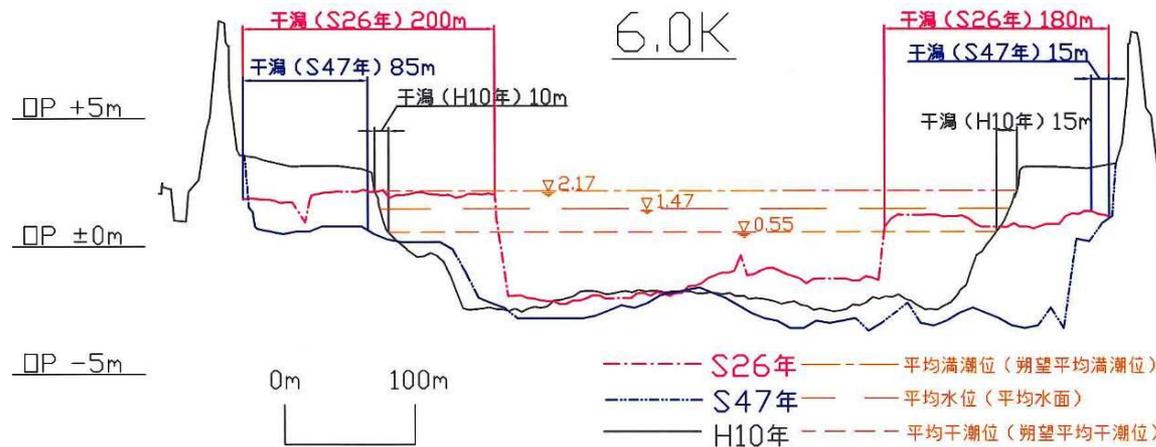
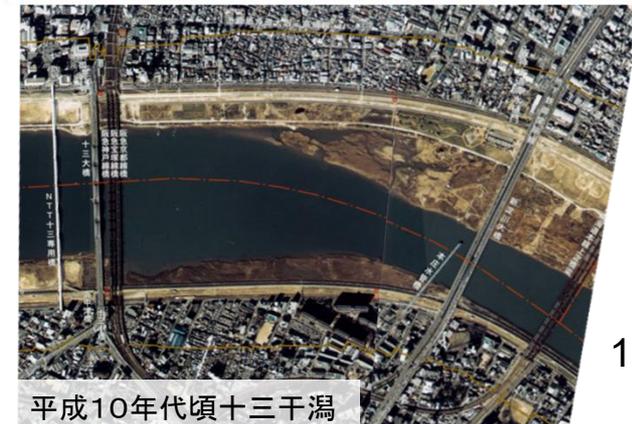
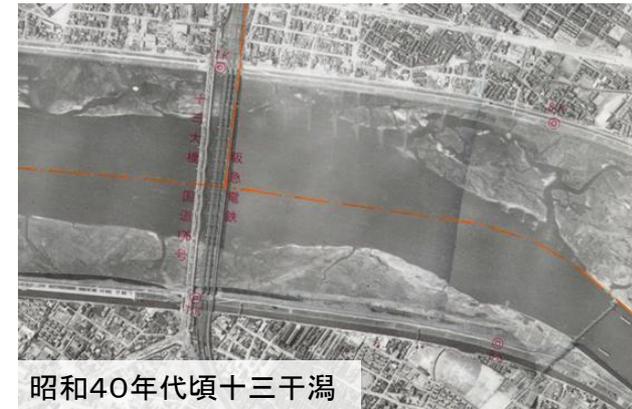
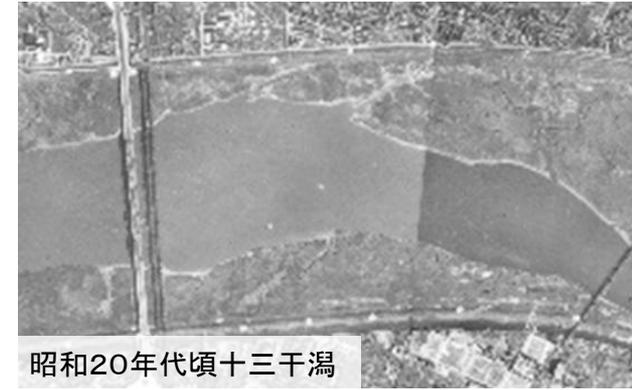
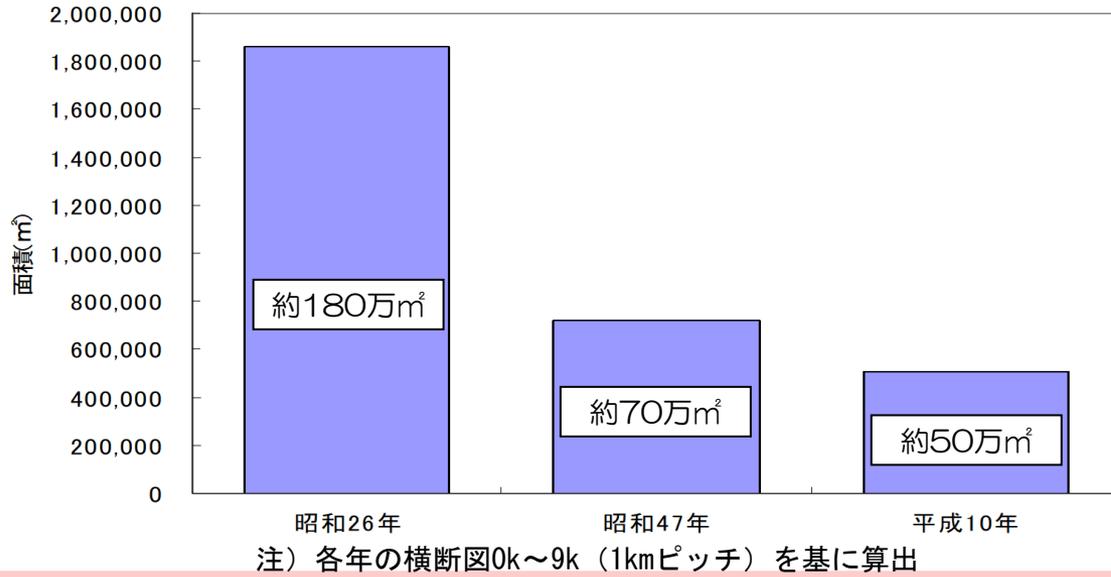
S46航空写真（汽水域0k～10k）



H9航空写真（汽水域0k～10k）



河道の変遷と干潟面積の減少

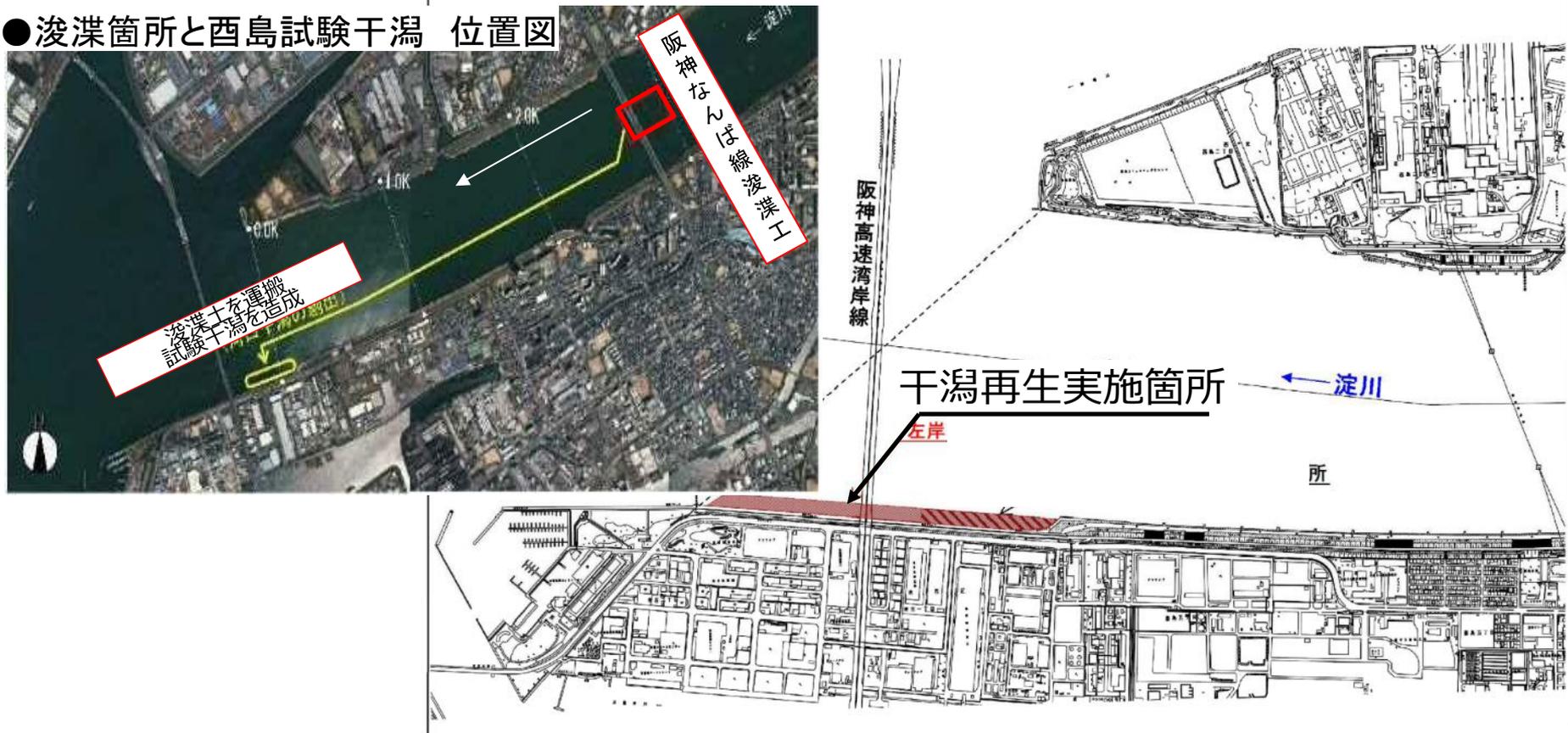


横断図経年変化図(6.0k)

1. 淀川流域の概要
2. 干潟の重要性と干潟減少の背景
- 3. 干潟保全再生事例：西島試験干潟**
4. 生物調査結果

- ・ 阪神なんば線工事で発生した浚渫土を、淀川の河口まで台船で運搬し、干潟再生試験に活用。
- ・ 試験の大きな目標は淀川汽水域における干潟再生であるが、今回の試験施工では置き土を実施してその後の波浪や出水で置き土がどのように移動するか、それにより生物相がどう変化するかを把握・評価し、今後の置き土の地点選定や置き土量の判断材料とすることが目的となる。

● 浚渫箇所と西島試験干潟 位置図



土砂投入前後の状況



R1年5月20日 [O.P.+0.82m程度]



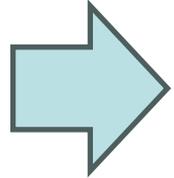
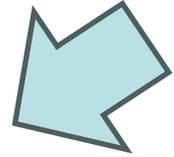
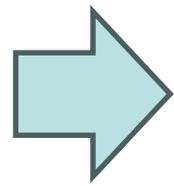
R5年6月19日 [O.P.+0.92m程度]



R3年7月26日 [O.P.+0.88m程度]



R7年4月30日 [O.P.+0.54m程度]



・北西風による波浪の影響で、投入した土砂が上流側や消波ブロックの隙間へ運ばれている。

R3年度0.4k付近
(0.3k付近の下流側)



R4年度0.6k付近
(下流から2つ目の水制の上流側)



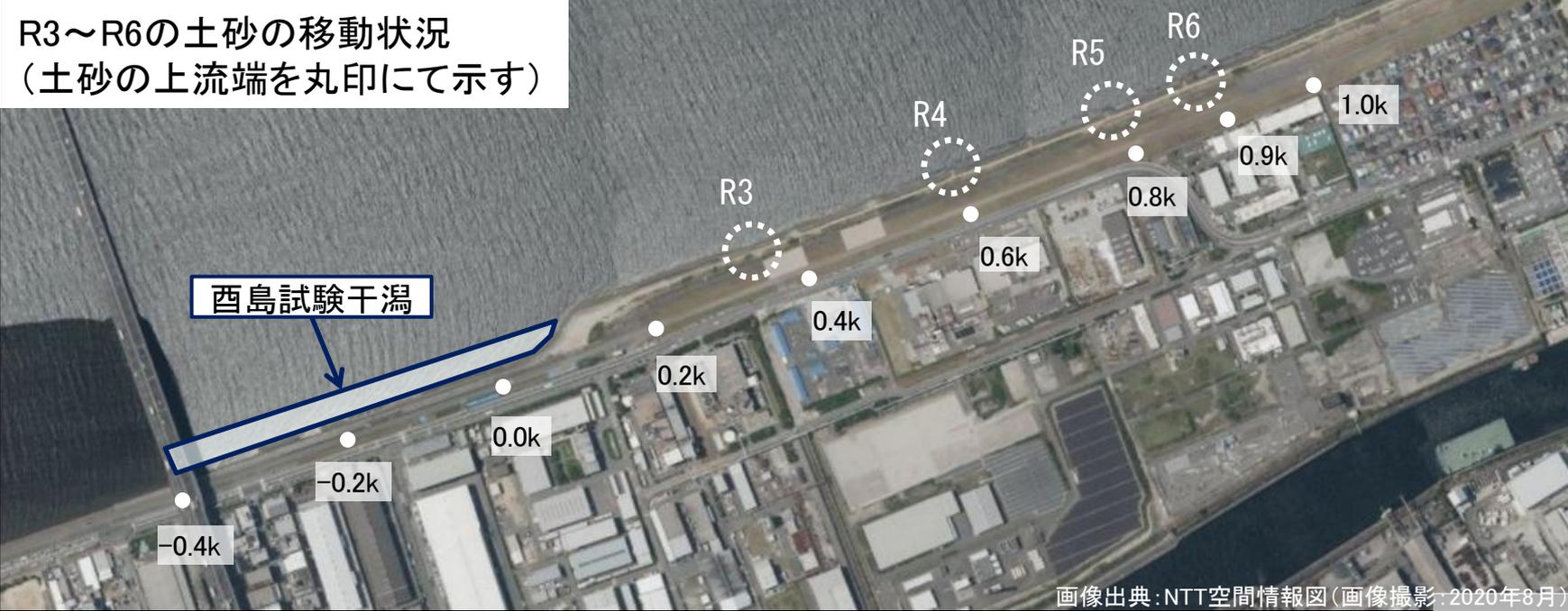
R5年度0.8k付近
(下流から5つ目の水制の下流側)



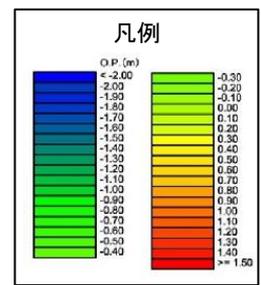
R6年度0.9k付近
(下流から6つ目の水制の下流側)



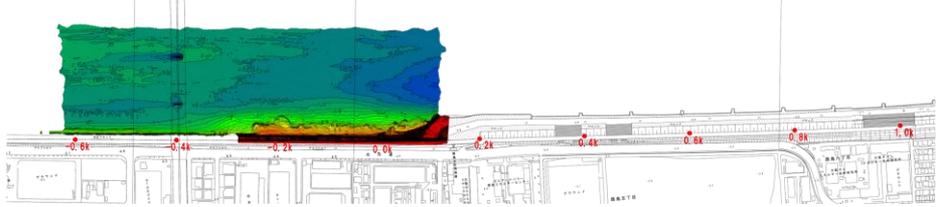
R3～R6の土砂の移動状況
(土砂の上流端を丸印にて示す)



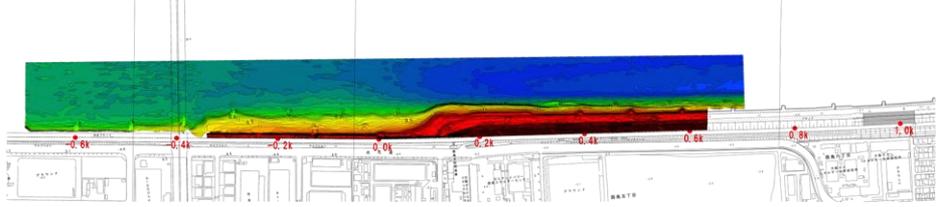
- ・1回目の土砂投入：令和元年8月後半～10月19日
- ・2回目の土砂投入：令和2年11月～令和3年3月
- ・土砂の動きはあるものの、0.0k付近～-0.4k付近の平らな地形は令和6年度も形成・維持されている。



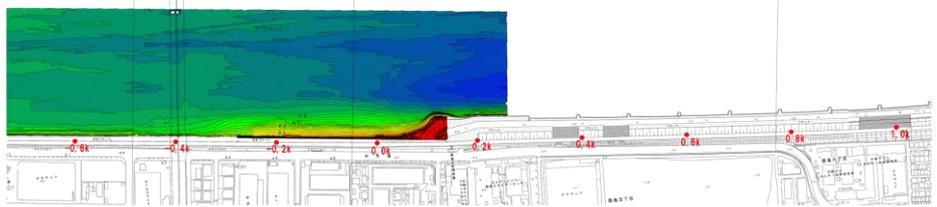
【令和元年度】
[深浅測量：令和元年10月31日～11月1日、UAV写真点群測量：令和元年10月28日]



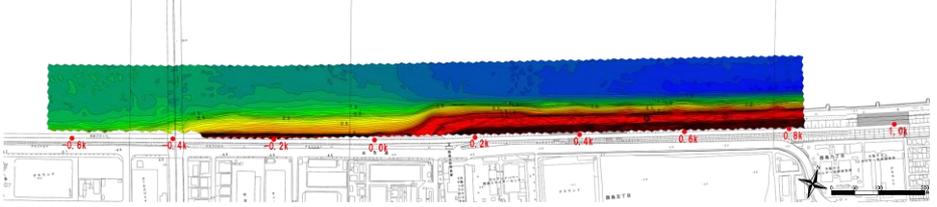
【令和4年度】
[深浅測量：令和4年7月4～5日、UAV写真点群測量：令和4年6月30日]



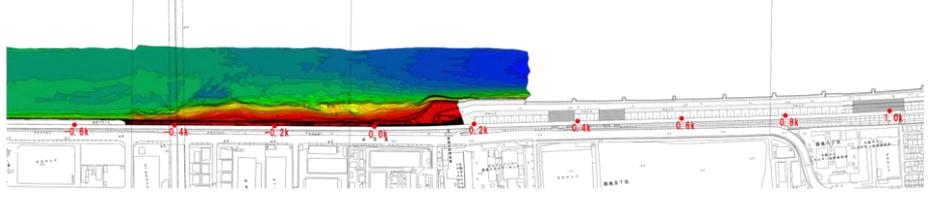
【令和2年度】
[深浅測量：令和2年11月16～18日、UAV写真点群測量：令和2年11月14日]



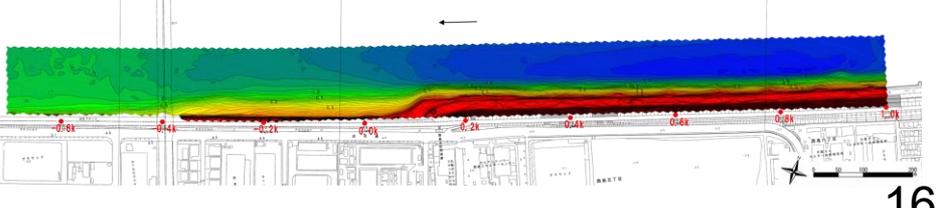
【令和5年度】
[深浅測量：令和5年8月17～18日、UAV写真点群測量：令和5年8月30日]



【令和3年度】
[深浅測量：令和3年3月、UAV写真点群測量：令和3年3月]



【令和6年度】
[深浅測量：令和6年7月23～25日、UAV写真点群測量：令和6年8月1～2日]



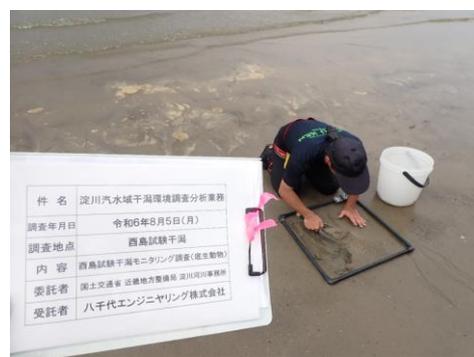
1. 淀川流域の概要
2. 干潟の重要性と干潟減少の背景
3. 干潟保全再生事例：西島試験干潟
4. 生物調査結果

・干潟再生試験施工の一環として、土砂を投入した範囲や土砂が移動した範囲では、河口干潟再生箇所を客観的に評価するために、河口干潟再生試験箇所におけるモニタリング調査を実施。

● 河口干潟再生試験箇所におけるモニタリング調査

項目	調査内容	調査時期
底生動物	<p>【定量調査】 50 cm × 50 cm の方形枠(コドラート)内の干潟上、もしくは底泥内に存在する底生動物を採集し。現地もしくは持ち帰って室内分析により種を同定</p> <p>【定性調査】 ・目視確認により確認種の種名や重要種の位置等を記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・春季 ・夏季 ・秋季
魚類	・投網、タモ網等による任意採集	<ul style="list-style-type: none"> ・春季 ・夏季 ・秋季
底質分析	<ul style="list-style-type: none"> ・底生動物調査地点の底質採取・分析、酸化還元電位計測 ・分析項目：強熱減量、粒度分布 	・夏季

・底生動物定量調査



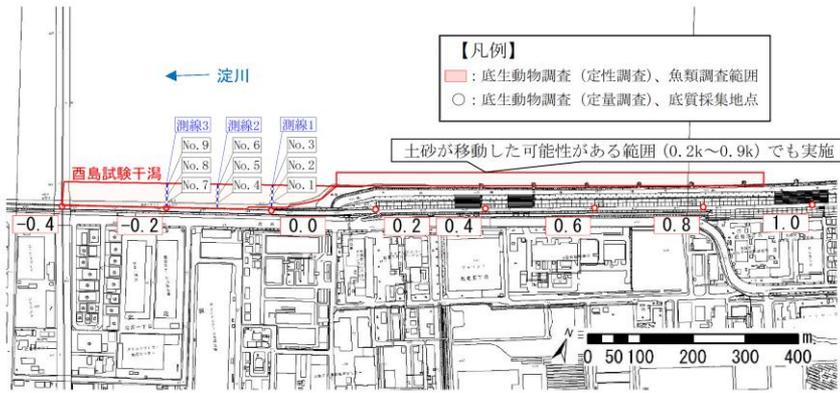
・底生動物定性調査



・魚類調査(タモ網)



・魚類調査(曳網)



・令和7年度は、魚類調査・底生動物調査ともに春季(5月下旬)、夏季(8月上旬)、秋季(10月中旬を予定)に実施。
 ・魚類調査: マハゼ(令和2年度より継続)、シロギスやマゴチ(令和3年度より継続)に加え、大阪湾での底びき網漁業の対象魚種であるイシガレイ(令和4年度より継続)やクロウシノシタ(令和4~5年度)を確認。いずれも砂底や砂泥底を好む。
 ・底生動物調査: 春季~秋季の各季でヤマトシジミやスナガニを確認(令和4年度より継続)、また、夏季調査ではタイワンガザミ(令和3~4年度)、秋季調査では砂泥底に生息するガザミ(令和4年度)を確認。

令和5年度 秋季調査:ガザミ



令和5年度 秋季調査:クロウシノシタ



令和6年度 春季調査:スナガニ(巣穴)



令和6年度 春季調査:ヤマトシジミ



令和6年度 春季調査:シロギス若魚



令和6年度 春季調査:マゴチ若魚



令和7年度 春季調査:マハゼ



令和7年度 春季調査:イシガレイ



令和6年度 夏季調査:シロギス稚魚

令和6年度 夏季調査:マゴチ稚魚

(調査設計関係者)

八千代エンジニアリング株式会社 大阪支店





ご静聴ありがとうございました。